

分室 オープンキャンパスでの取り組み

工学ガールのためのサマーCafé 姫路工学キャンパス

9月24日～3月31日の間、Webオープンキャンパスが開催されており、その中に男女共同参画推進室分室企画の「工学ガールのためのサマーカフェ」があります。

今年度は、理系進学を目指す女子中高生を対象に、以下の動画を配信しています。

(<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/outline/oc/contents/summercafe/index.html>)

- ・「私のキャンパスライフ」機械・材料工学科 機械工学コース 4年生 野田知里さん
- ・「高校生の皆さんへ」応用化学工学専攻 博士前期課程 1年 荒木海璃さん



在学生による発表動画

理学部 on-line 相談会 播磨理学キャンパス

8月8日に播磨理学キャンパスにおいて、理学部受験希望者のオンライン相談会を実施しました。相談員として男性教員5名、女性職員1名、男性職員1名、女子大学生5名、男子大学生8名を配置し、女子高校生6名、男子高校生1名、保護者3名の相談に応じました。アンケートでは、単に「役立った」という回答だけではなく、「本学理学部を受験したい」という記載もありました。

減災復興政策研究科 女性研究者による相談会 神戸防災キャンパス

8月2日に神戸防災キャンパスにおいて、個別相談会を実施しました。相談員として女性教員2名、男性教員9名、女性職員2名、男性職員1名、女子大学院生4名、男子大学院生3名を配置し、受験希望者8名（女性6名、男性2名）の相談に応じました。具体的な研究や学生生活を描くための相談の機会を提供するだけでなく、女性研究者との直接の会話や研究紹介パネルの展示を通して、女性研究者の活躍を紹介しました。

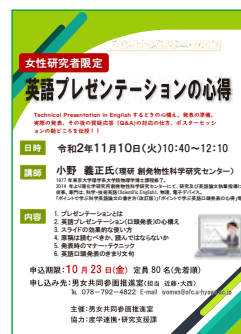
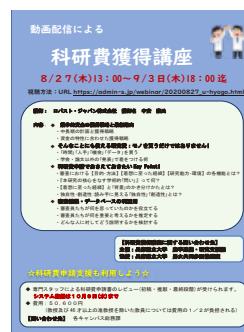


阪本教授の研究紹介パネルの一部

本部 女性研究者支援

科研費獲得セミナー（共催 産学連携・研究支援課）

8月27日（木）13:00～9月3日（木）18:00の期間、ロバストジャパン（株）の中安豪氏（代表取締役、理学博士）による科研費獲得講座をオンデマンドにて実施しました。「科研費の特性と申請書戦略」というテーマで、科研費改革の意図、科研費新様式の攻略、審査結果の見直しについて解説しました。期間中に116回の再生があり、今後も継続を望む声が寄せられるなど、関心の高さがうかがえました。



英語プレゼンテーション研修（共催 産学連携・研究支援課）

11月10日（火）に「英語プレゼンテーションの心得」研修をオンラインで実施しました。参加者は80名（女性47名、男性33名）うち教員は63名、大学院生17名（女性7名、男性10名）でした。

講師の小野義正氏は、理化学研究所創発物性科学研究センターにて、研究及び英語論文執筆指導に携わっており、『ポイントで学ぶ科学英語論文の書き方（改訂版）』（2016年、丸善）等、著作・編集を多数手がけておられます。大変丁寧でわかりやすい講義内容であり、アンケートでは、「英語でプレゼンする際に気をつける表現やニュアンスなど、分かりやすく今後の参考にさせていただく。」「とても丁寧に説明され、内容をよく理解できた。」などの意見がありました。また、今回の内容が初心者にも理解しやすかったため、特に女子大学院生に対して大変有意義な支援となりました。

科学といえば「男性」？（2020/12/2 朝日新聞の抜粋）

物理、化学、機械工学、情報科学、数学、生物といった科学のイメージは男性的？ それとも女性的？ 東京大などがアンケートをしたところ、いずれも男性的だという印象を持つ人が多いことがわかった。特に女性でその傾向が強く、科学への女性進出を妨げている可能性があるという。こうした調査は日本ではあまり行われてこなかったが、印象の偏りが浮き彫りになった。男性的な印象が最も強かったのは機械工学で、物理、数学、情報科学、化学と続き、最も低い生物でも男性的よりであった。また、物理で「電磁場」や「相対性理論」、機械工学で「ものづくり」「ロケット」など、分野ごとにキーワード計79個を選んで印象を尋ねたところ、数学の「美」と生物の「生命」などを除く74個が男性的な印象だった。こうした印象は、男性より女性の方が強く持つ傾向があったという。本アンケートを実施した一方井氏は「科学の分野に進む女性が少ないのは、イメージが障壁の一つになっていると考えられる」と話す。論文は「ジャーナル・オブ・サイエンス・コミュニケーション」に掲載された。